

# 酒々井町 郷土研究会会報

第90号

平成10年10月1日発行

酒々井町郷土研究会

広報部

## 本佐倉城跡の確認調査について

木内達彦

本佐倉城は関東の雄族、下総守護千葉氏の戦国時代の居城であり、文明年間(一四六九〜一四八六)より天正十八年(一五九〇)の落城まで九代、約百年余にわたり下総の中心として君臨していました。城跡は重要な遺跡として平成十年九月十一日付で国指定史跡となりました。

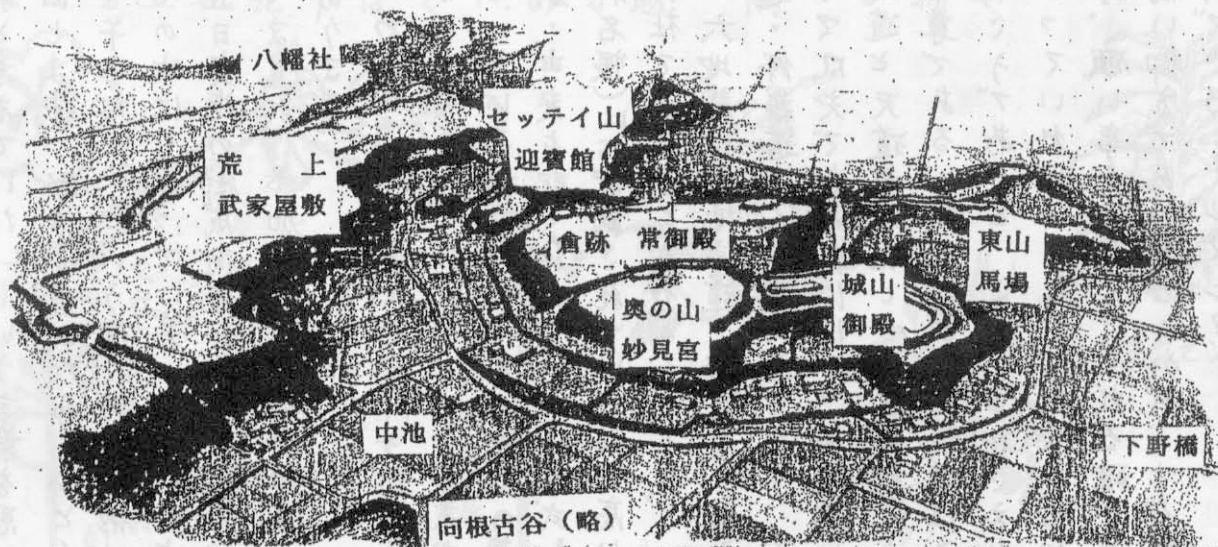
本佐倉城跡は平成二年から五年にかけて、城跡の範囲と現状を調べるための確認調査が行われています。そこで判明した幾つかの事柄について書いてみることにします。

「城山」郭 建物跡が発見されたほか「天目茶碗」や「素焼きの杯」が発見され、城主の「晴れの御殿」

があつた可能性があります。一番守備の厳重な場所で櫓跡も発見されました。

「奥の山」郭 千葉氏の氏神である「妙見宮跡」が発見されたほか、「素焼きの杯」や「灯明皿」が多く発見されました。妙見宮は現在の千葉市(千葉神社)にあります。里見氏などの合戦の場所となり、本佐倉城にも祀りました。この場所が城主嫡男の元服などの行事が執り行われました。

「倉跡」郭 かつて焼米が発見されたことにより「倉跡」と呼ばれるようになった場所ですが、調査の結果、多数の建物跡と当時としては貴重である中国製陶器が大量に発見されました。これにより、城の中でも身分の高い人々が、ここに生活していたことが判ります。ここには「日常



の御殿」や集会のための「会所」などが存在していました。

「セツテイ山」郭 「セツテイ山」とも呼ばれるところ。城の中心部に行くための通路があり立派な城門があったことが判りました。また郭からは基石・茶壺・銅製火箸など風雅な生活を想像させる遺物が発見されているので「迎賓館」と考えられます。

「荒上」郭 本佐倉城で最大規模の郭、南北七〇メートル×東西三〇メートルあります。調査の結果、屋敷跡と考えられる建物跡が各所に発見されたことにより、直屬武士団の武家屋敷が存在していたと考えられます。また壮大な空堀、土塁がよく残るほか、新たに「虎口」(出入り口)も発見されました。

「向根古谷」郭 本佐倉城中心部の南に位置する郭で、出入り口部分に非常に完成度の高い「馬出郭」と櫓台二基を配置した郭ですが、建物は少なく貯蔵道具が多く発見されたことから軍団の駐屯地と考えられます。江戸時代には「元大手」と伝承されています。

### 御成街道に思うこと

市川英子

御成街道は、以前から興味が有りましたが、安藤先生のお話を伺った時から、一層、その気持ちが強くなりました。機械と言える物が何一つ無い時代に、わずかな日数で、何十キロメートルもの道路を造り上げる殿様の力もさることながら、自分達が入れるべき仕事を投げ打って、心の中は泣きであつても、「お上の言うことに皆で一緒に従う」という世の中がすごいと思います。小さくは家族単位から、部落単位、村単位と、連帯責任になることを考えれば、自分の都合など言ってもいられないのでしようが、良い意味でも悪い意味でも、大したものですよ。作家の故司馬遼太郎さんが、日本人の精神性の高さを示すものとして、よく書いておられました。個々の都合は表に出さず、大局の為に、己を一つの

駒と考えていた」という言葉を思い出します。私も「晴れたら、ふとんを干したい」という個人的な事柄は心の中にしまつて、第二回の六月十五日実施の御成街道を歩くのに参加しました。参加すれば良い事は沢山あります。

わずか二・三分で八十八ヶ所巡りが出来ましたし、式内という言葉がついている神社は、「その神社の草創・由来を記した文書(『延喜式』(神名帳)」に記載されている格の高い神社であることがわかりました。

六地藏は、地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人道・天道とあり、そして凡夫である私には、一番縁遠い人道と天道を表現している私の守り本尊である。阿弥陀如来の印形はこれこうであると。よし！これさえわかっているならば、これから仏像を見た時、願い事をかなえてくれる確率の高い御方であるかどうか、すぐ判断できる……シメシメ……。

あーア、ますます人道と天道から遠のいてしまった。

「邪馬台国は見えてきたか」の講演をきいて

上野 哲

郷土史講座案内で八月九日に「邪馬台国は見えてきたか」というテーマで国立歴史民俗博物館副館長自石太一郎教授の講演会があることを知り、あらためて今年の初めに奈良県天理市の黒塚古墳から、十三面の三角縁神獣鏡が出土した事を思い出しました。また、以前読んだ黒岩重吾著『鬼道の女王卑弥呼』を取り出して読んでみました。

講演は「邪馬台国」は畿内か、九州かの質問（九州説やや多し）から始まり、『魏志』倭人伝から邪馬台国の所在地推論、三角縁神獣鏡の説明、年輪年代法による古墳の構築時期の解明から着墓古墳の被葬者は「卑弥呼」の蓋然性が高い、そして鉄の輸入ルートへの支配権を巡る邪馬台国連合からヤマト政権への展開など、日本国の起源について多くの興味ある内容でした。

また、質問として「狗奴国」の所在地及び前方後円墳と前方後方墳の違い等がたどられました。が、講師の時間をかけた詳しい解説により深い感銘を受けました。

古代史の扉を少し開けてもらったような、たいへん興味ある講演でした。

植物のはなし（七）

触れる前に散る草の実

亀井香久乃

振動感知型起爆装置!!、何やら機械工学に出てきそうな言葉ですが、実は植物にも其の仕掛けを持つ草があります。

夏から初秋にかけて庭隅で、彩りを見せる鳳仙花、土面で見かける傍食、湿地を好む釣舟草、以上は良く知られる植物です。溝辺の緑に美しく映える釣舟草に、手先を近付けると、いち早く察知し近くの結実した実はパチツと音を立て挑ね散ります。其の瞬間思わず指先は花から離れます。示威運動の一つでしょうか。以上が振動感知型起爆装置です。ご参考までに。



ホウセンカ



ツリフネソウ



カタバミ

酒々井の絵馬展  
 祈りや願いや感謝  
 をこめた絵馬。酒々井  
 に存在する絵馬の一部  
 を展示します。見て  
 いただき、現在のそれ  
 ぞれの思いを重ね  
 てみては如何でしょうか

湯西川平家落人村を訪ねて

筑紫 喜美子

八月二十六日、八街観光バスで五時五十分出発、暫く体調を崩していたので少し振りの旅行に胸がわくわくします。台風が発生との予報のわりには、空はガラガラ。でも傘はカバンの中に入れてました。

思ったより道路事情が良く、日光をすぎ、鬼怒川竜王峽に着きました。ここは亡夫と三十年位前に来た思い出の地。でも余りの変わりようでびっくりしました。昔は茶店が一軒だけ、その前を通って川の方に下っていったと思います。バスから降りて崖からのぞいても、川は見えませんでした。

川治を経て湯西川へ、だんくんと山の中に入ります。窓から見える山には、芒・萩・あざみが咲き秋を思わせます。

歴史資料博物館・平家民俗資料館

のニヶ所共、民家に平家の落人の品々が展示され哀愁を覚えました。平家の里は一番見る物がありました。

昼食は「小藤やかた」で大きな風呂裏に、山のように盛られた炭が真赤に燃えて、そこに「お団子・鱒」が串ぎして焼けていました。美味しくいただき、その上「山菜そば」がすごく熱くて、皆で汗を流して食べました。宿の人に団扇をもらい涼しい風に吹かれて一休みの後、慈光寺に向かうその道すがら茅葺屋根の家があり良い眺めでした。

次は狩人村、昔はこんな生活もあったのかと、感無量でした。日本中に平家の落人村があり不思議に思います。哀れな話です。

二時に帰路につき渋滞もなく定刻に帰れました。お天気にも恵まれ、ツアーでは行けない処を見学出来て楽しい一日でした。本当にありがとうございました。



郷土研日誌		
日	内容	人数
7月4日(土)	史談会「御成街道探訪」	23人
7月20日(月)	御成街道を探訪	23人
8月9日(月)	郷土史講座「御成街道探訪」	150人
8月26日(木)	日帰りの会 湯西川方面	39人
9月5日(土)	史談会「御成街道探訪」	21人
9月4日(金)	運営委員会	23人
9月8日(火)	石巻探訪	21人
9月25日(金)	野草観望会(笠森方面)	30人
9月26日(土)	会報発送	25人

御成街道を探訪(第三回)

広報部

会計報告		
項目	金額	金額
日帰り湯西川方面		
収入	2600 × 39	331,500
支出	八街観光バス	333,085
	諸雑費	12,900
		345,985
		郷土研の補足 14,485円

七月二十日、曇り空のもと心配された暑さもそれほどなく、京成大神宮下より船橋大神宮(B点)↓西福寺↓慈雲寺↓了源寺↓御成街道と成田街道の分岐点(A点)↓新津田沼まで歩きました。

西福寺の境内最古の一つとされている五輪塔と宝篋印塔はどっしりと立派でした。了源寺では、ご住職の好意により、山名宗全の小さな像が納められた厨子、文字盤が廻る江戸時代の和時計など、数々の珍しい品を拝見でき、実り多い楽しい行程でした。「第四回」は十月十二日(月)津田沼から夷根までの探訪です。皆様と一緒に歩きましょう。



見学案内

日帰り見学会

川越方面 (雨天決行)

11月6日(金)

秋たけなわの一日、関東では鎌倉につぐ古い街、小江戸とも呼ばれた川越を訪ねます。

川越の見所は何と云っても天台宗の関東総本山の喜多院で、南院・中院・北院とあったが、寛永十五年の大火で焼失し、翌年家光の命により再建された。いまある建物は、家光が江戸城紅葉山の本丸書院を移築し、客殿・庫裡にあてたもの。

徳川家康の知遇を受けた天海和尚は喜多院及び日光山を授けられる。家康の死後、天海和尚は御霊を久能山より日光に移すにあたり、喜多院で四日間の法要をし日光に移す。その法要に春日局も会したという。その重要文化財は客殿・書院・庫裏・慈眼堂・鐘樓門・山門。

県指定文化財は番所・慈恵堂・多宝塔。室物の重要文化財は職入盡絵・太

刀・銅鐘・宗版一切経等。

南側に東照宮がある。本殿・隨身門・鳥居・拜殿・瑞垣・唐門のすべりて重要文化財。

外に見るべき物は日枝神社・川越城本丸御殿・大沢家住宅・時の鐘・蔵造資料館・駄菓子屋・町並等があり、自由見学にします。資料の略図を見ながら時間を有効利用して、見学して下さい。

昼食後、バスで平林寺に移動します。

金鳳山平林禅寺と号し太田道灌の父道真の創建といわれるが、年代が合致しない。野火止用水は寛永年間平伊豆守信綱が造った。五六万平メートルの平林寺境内林として、国指定の天然記念物。総門から見ると総門・山門・仏殿・中門・本堂・書院が一直線上に在る。

名勝探訪

柏方面

12/2(水) 雨天代替12/4(金)

船橋から東武野田線で新柏駅まで下車、徒歩で逆井までの、一時間半ばかりの行程をゆっくり歩きます。

駅を出て十五分歩いて法林寺へ。

柏市内最大の大銀杏の伝説を聞いて次の香取神社を経て増尾城址公園で

昼食をとり、園内を散策します。

公園をあとにし十五分ばかり歩き、安土桃山時代の形式を留める石垣がある廣幡八幡宮をたずねます。

帰りには緑に包まれ、森林公園かどさえ思わせる中にあるニツカウイスキー工場を見学し、さき酒を賞味します。美味しく試飲してホンワカ気分が家路に着きましよう。

年の暮れに入り何かと落ちつかない時期ですが、一日のんびりと身体を休ませて、平成十年年度の郷土研の見学行事をしめくくりたいと思います。

御成街道を歩く(第四回)

大久保・実籾方面 10/2(金)雨天中止

第三回で津田沼あたりまで、歩いたところですが、今回は大和田、そして実籾までの約四キロメートルを歩きます。街道部分約二・五キロメートルの真直ぐな一本道であることが良く分かる行程です。

途中、大久保の商店街で昼食をとりますが、一寸ウインドショッピングなどしたくなるかも知れませんが時間との相談です。

郷土研行専案内

H10年10月~12月

史談会	12月5日(土) 13:30 公民館会議室 「印旛郡誌 酒々井町詩を読む」⑦ 講師 高橋健一先生
御成街道を探訪 (第4回)	10月12日(月) 大久保・美萩方面 京成酒々井駅 8:20集合 京成酒々井駅 → 京成津田沼駅 → 菊田神社(水鳥公園) → 子安神社 → 正福寺(観音堂) → 染師寺 → 警固八幡神社 → 大塚神社 → 一里塚跡 → 無量寺 → 京成美萩駅 → 京成酒々井駅 行程 (雨天中止) 昼食は自由昼食 (都合により一部行程変更有り)
生涯学習 フェスティバル 文化展	10月27日(火)~10月31日(土) 会場 公民館会議室 開催時間 10/27(火) 13:00~17:00まで 酒々井町に残る 10/28(水)~10/30(金) 9:00~17:00まで 絵馬を展示します。 10/31(土) 9:00~16:00まで 「酒々井の絵馬と信仰」
日帰り見学会	11月6日(金) 雨天決行 集合時間 6:50 公民館 7:00出発(小街観光) 川越方面 定員 45名 申込受付 10月14日(水)9時~10時 参加費 6,500円 場所 公民館ロビー 行程 中央公民館 → 湾岸幕張 → 川口 → 川越 → 川越市内見学(昼食) → 川越 → 所沢 → 平林寺(見学) → 和光 → 湾岸 → 中央公民館 キャンセル受付=実施日3日前まで(会田香雄宛 TEL: (17:00予定)
名勝探訪	12月2日(水) 京成酒々井駅 8:10集合 雨天代替/12月4日(金) 柏方面 弁当・飲物持参のこと 京成酒々井駅 → 京成船橋駅 → 東武船橋駅 → 東武新柏駅 → 法林寺 → 香取神社 → 増尾城址公園 → 廣幡八幡宮 → ニッカウスキー柏工場 → 東武逆井駅 → 東武船橋駅 → 京成船橋駅 → 京成酒々井駅 行程

北日本は梅雨明けもないまま、秋になり、千葉県も日照が平年の三分の一とか。中国の洪水は二億人に被害が出たとのこと。これほど異常気象が続くのは、地球温暖化が想像以上に進んでいるせいなのでしょう。去る八月九日に開催された平成十年度郷土史講座は、国立歴史民俗博物館副館長・白石太一郎先生をお迎えして「邪馬台国は見えてきたか」というテーマで行われました。当日は成田・佐倉・富里などからも来られ、中央公民館講堂全体が熱気につつまれました。

三角縁神獸鏡の意味するもの、奈良県の古墳の様子、黒塚古墳の位置づけ、狗奴国の話など古代史に興味をお持ちの皆様方にはたいへん魅力のあるお話ではなかったのでしょうか。遠路おいでくださいました皆様、ありがとうございました。

さて第四・四半期は本年度のメインイベントである絵馬展をはじめ、多くの行事が催されます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

